

began in August. Preliminary analysis of data for the first six months revealed the following tendencies. In five of the six months the mean number of groups detected was highest at the least disturbed site. There were signs of a peak in detection rate around October/November. This corresponds to the peak of the mating season, and was probably a result of an increase in vocalizations at this time of year. Analyses of faecal samples indicated that insects, wild strawberries (*Rubus spp.*), and the fruit of *Ficus erecta* and *Stachyurus praecox*, were more common components of the diet at the more disturbed sites. By contrast, the fruit of *Elaeocarpus japonica*, and acorns of species of the *Fagaceae*, were more commonly found in faecal samples from the less disturbed sites. Even at this preliminary stage, the results strongly suggest that the degree of habitat disturbance influenced both the relative density of monkey groups and the composition of the diet. Future analyses will be explore these effects in more detail. Data from at least one annual cycle will be required to fully assess the impact of seasonal influences on both diet and ranging patterns.

自由 : 13

ニホンザル野生群におけるオス間関係の群間比較

高橋弘之 (京都大・理)

ニホンザルの野生群における群れオス間の社会関係は、群れによって異なることが報告されている。本研究は、同一地域に生息する複数の群れを観察することによって、オス間関係に群間変異をもたらす要因を明らかにすることを目的としている。

調査対象は、宮城県金華山島に生息するニホンザル野生群、A群およびB1群である。1994年の出産期から1995年の冬期にかけて群れオスを個体追跡し、グルーミング、近接等の社会的相互交渉の資料を収集した。

資料は現在整理中であるが、結果についてこれ

までに明らかになったのは以下の点である。

1) A群

A群は1994年4月から11月の調査時点で群れオスは3頭、1995年3月の調査時点で新たに1頭移入し4頭となった。メスの頭数は変動がなく、20頭であった。社会的性比は0.15から0.2となった。オス間のグルーミングは、1994年の交尾期に2位と3位の間で1例観察された。また、1995年の冬季に2位と新たに移入した4位の間で1例観察された。

2) B1群

B1群の群れオスの頭数は1995年3月の調査時点で5頭であった。メスは12頭であり、社会的性比は0.42であった。オス間のグルーミングは1995年の冬季に1位と2位の間で2例、1位と3位の間で1例、2位と3位の間で1例の4例が観察された。このうちの2例は、1位オスが2位および3位オスの催促をきっかけとして一方的にグルーミングを行った。

1995年の冬季について比較すると、A群のオス間のグルーミング交渉はB1群よりも希薄であったといえる。このオス間関係の群れによる違いには、社会的性比の違いが影響していると考えられる。群れの中に相対的に多くのオスが存在すると、彼らの間の緊張関係はより高まることが予測できる。したがって、社会的性比が高い群れでのオスの共存には、オス間の緊張関係を調整するために、親和的交渉が重要な役割を果たしていると考えられる。

自由 : 14

ニホンザル (*M.fuscata*) のワカモノ期メスの性行動

竹ノ下祐二 (京都大・理・人類進化論)

ニホンザル餌づけ群で初発情から初産までのワカモノ期メスの性行動を観察し、オトナメスのそれと比較した。調査対象は京都市嵐山の餌づけ群嵐山E群である。対象個体とし

て未経産メス5頭、オトナメス4頭を選び個体追跡によって行動観察をおこなった。その結果を以下にしめす。

(1) ワカメスは、オトナメスと比べると、マウントイベントの相手数、回数とも未成熟オスとで有意に多く、逆にオトナオスとは有意に少なかつ